

1 主題設定の理由

学習指導要領の柱の一つに「社会に開かれた教育課程」が記されている。これを実践するために本町においても令和5年度から「地域とともにある学校づくり」を目指し、高千穂町教育委員会指導・支援のもと学校運営協議会が実施されている。また、本町の教育施策においては、

・教育目標1「社会を生きぬく基盤を育て、高千穂町の未来を担う人材を育む教育の推進」として、高千穂 GLOCAL の推進、地域の特色ある資源を生かした教育活動の推進

・教育目標2「高千穂町の教育を支える体制・整備の充実」として、学校種間の連続・接続の推進

・教育目標3「町民が生涯にわたって学び、教育に参画する社会づくりの推進」として、学校を核とした地域づくりの推進、地域とともにある学校づくりの推進を掲げている。

本校は、令和7年度より上野中学校閉校に伴い、町内唯一の中学校として新たにスタートした。この機会を絶好のチャンスと捉え、本町の教育目標3に重点を置き、教頭及び教職員の専門性を生かした地域社会との連携強化や地域人材の活用をいかに推進しながら具体的な活動が実践できるかを学校運営協議会の運営上の課題を踏まえ明らかにするため、本主題を設定した。

2 研究のねらい

学校運営協議会の運営上の課題を踏まえ、地域社会との連携強化や地域人材の活用を推進しながら具体的な活動について究明する。

3 研究の概要

(1) 研究の内容

- ① 本校の学校運営協議会の運営状況と内容
- ② 地域社会との連携・地域人材の活用を図るための取組
- ③ 地域と学校をつなげるための教頭の役割

(2) 研究の実際

- ① 本校の学校運営協議会の状況の運営状況と内容

ア 本校の学校運営協議会の目的

教育の質の向上を目指すために、学校教育目標の実現のための教育活動や学校運営の妥当性や効果について評価を行い、それをもとに教

育活動や学校運営について改善を図り、信頼される学校の実現のために、教育目標やその具現化のための取組について保護者や地域の方々に説明し、その達成状況や改善点について公表し、地域ぐるみの教育の推進を図るために、保護者や地域の方々の参画をより一層すすめて、学校・家庭・地域のコミュニケーションを図り、確かな信頼関係の構築を進めることを目的とし、以下の年間スケジュールを立てている。

年間スケジュール

月	自己評価関係	学校運営協議会関係	備考
4月	○学校評価の基本的考え方		学校経営ビジョンの公表（PTA総会）
5月	○評価に関する資料収集と整理	学校運営協議会委員決定	
6月	○第1回学校運営協議会 ・学校経営方針説明 ・学校評価について	第1回学校運営協議会の開催 ・学校経営ビジョン及び評価項目の趣旨説明	
7月	○中間評価の実施 ・自己評価（職員、生徒、保護者）		
8月	・中間評価結果の分析と考察 ・2学期の取組の検討		2学期の取組説明（学校だよりなど）
9月			
10月	○第2回学校運営協議会 ・授業参観 ・給食試食会の実施 ・生徒会との交流及び協議	第2回学校運営協議会の開催 ・学校評価に関する中間発表等	みやざき子ども教育週間におけるオープンスクールの実施
11月			
12月	○最終評価の実施 ・自己評価（職員、生徒、保護者） ・最終評価結果の分析と考察 ・改善点の検討 ・自己評価書の作成	第3回学校運営協議会委員 ・自己評価書についての最終アセスメント ・学校運営に関する評価書を作成し校長へ提出	
1月			
2月	○第3回学校運営協議会 ・立志の集い参観 ・改善策の再検討		
3月	○自己評価結果・学校運営に関する評価結果の設置者への提出		保護者等への公表（学校だよりなど）

P（計画） D（実践） C（評価） A（改善）

イ 学校運営協議会の内容と改善点

第1回学校運営協議会では本校の学校運営について説明する中で、例年、学校関係者評価に偏った運営を行っていたため、今年度の教育課程の見通しを説明し、委員の方々や地域の方々に積極的に参加してもらう場を設けるための変更点について協議を行い、了承を得た。

- ・今年度予定される地域との交流学习や事業、学校行事に積極的に参加していた



- ・今年度は紅葉祭（文化祭）から地域伝統芸能発表会を分離し別日に開催することや、生徒会がいじめ問題サミットに参加し活動内容を発表するため、生徒会活動を説明する場を設け、委員としてのアドバイスをいただく。
- ・11月の第2回学校運営協議会で、講師を招いて委員の役割について再度確認していく。
- ・2学期第3回参観日をフリー参観週間とし、委員の参加とともに町内世帯の参観を案内する。

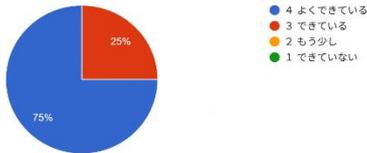
- ・ 11月実施予定の地域の方々との座談会に出席していただき、生徒との交流を深める。

② 地域社会と連携を図るための取組

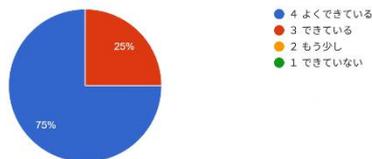
○ フリー参観週間

今年度、高千穂町唯一の中学校となり、地域の方々に中学生の活動の様子を参観していただき、今後の高千穂中学校の発展につないでいく目的で実施した。実施後はアンケートに回答していただき、以下のような回答を得た。

①生徒たちは、進んであいさつをしていましたか。



②生徒たちの話し方や言葉づかいは、よかったですか。



③生徒たちの話の聞き方は、よかったですか。



④生徒たちはやる気をもって学習に取り組んでいましたか。



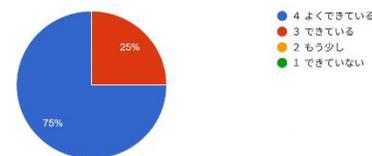
⑤生徒たちは、友達とかかわり合って学習をしましたか。



⑥教師は、「分かりやすい授業づくり」に努めていましたか。



⑦学校は、清掃がなされ整備されていましたか。



(参観者の感想)

先生達にやらされ感がなく、それぞれの教科等で熱心に授業をされていました。その先生方が生徒の生き生きと学ぶ様子が反映されていました。特に、自分が参観させていただいた国語科と英語科は、語学の特性もあるのですが対話を多く取り入れており、学習者主体の学びができていたと感心しました。先生達が使命感・責任感をもってはつらつと取り組んでいるのは、校長先生や教頭先生がそのような学校・雰囲気づくりをされているからだと思います。また、事務室や保健室も一体となって学校全体がチームとして機能していると感じました。本日はばせていただいたことを参考に、自分の学校でも「子どもも教師も 楽しく元気に成長・向上」できるように努めます。参観させていただいてありがとうございました。高千穂中学校のすべての先生方にお礼申し上げます。

先生方からの問いかけに生徒が自発的に発言していました。協働して学ぶことで、互いに記憶に残りやすくなっていると思います。掲示物も学習を促す効果があると感じました。ありがとうございました。

参観させていただきありがとうございました。どの生徒も意欲的に授業に取り組む姿が印象的でした。授業の活動も協働的な活動が多く、勉強になりました。ありがとうございました。

見学させていただきありがとうございました。授業開始前になったら自然に誰かが声をかけて、時間になったらバツとみんな静かになったり、授業中話を聞く時と友だちと協力して考える時のメリハリがしっかりしていたりする様子を見て、先生方の普段の指導が素晴らしいと感じました。

○ 第1学年伝統芸能発表会

今年度より紅葉祭（文化祭）のプログラムから単独開催として実施。神楽、民謡、薙刀、彫り物、上野白太鼓踊りそれぞれの指導者（お師匠様）から指導していただいたことを地域の方々にもみていただいた。



○ 第2学年職業人講話

職場体験学習前に地域で働く方々に来ていただき、働くことの意義、なぜこの職業に就いたのか、働く上で意識していることなど、2年生徒に分かりやすく説明していただいた。職場体験学習事業所、並びに講師の方々は、今年度より町教育委員会に新設されたキャリア教育コーディネーターに調整していただいた。



○ 第3学年探究学習

第3学年では、総合的な学習の時間に高千穂町を今以上に活性化するためにはという課題を持ち、具体的な内容について計画を立て、自分たちの力で実践していく取組を行っている。

〈実際の取組〉(一部)

・モルックフェスティバルの実施

2027年に宮崎県で開催される国体で、本町は剣道競技とモルック競技（オープン参加）が実施される。そこに着眼したモルック実行委員会が生徒たちから地域の小・中・高校生との交流を深める目的でこのフェスティバルを計画した。高千穂町と担当生徒が打合せを行い、国民スポーツ大会推進室より予算をいただき

実施することができた。



・高千穂散策スタンプラリー

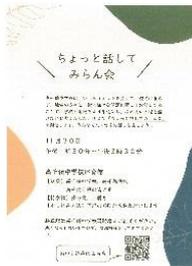
高千穂町を訪れた観光客や地域の方々に町内を歩いてもらいながらゆったりとした時間を過ごしてもらうことができるような企画・運営を実施することができた。



- 生徒会主催座談会「ちょっと話してみらん会」
本校生徒会は、宮崎県いじめ問題サミットでいじめ撲滅に関する取組（ピンクウィーク・人権標語・ハートメッセージ）を発表し代表として全国いじめ問題サミットに出場することが決定した。

この取組において、いじめ問題を学校だけの課題とするのではなく、地域の課題として捉え、地域の方々と中学生がいじめのことについて語る場を設定したいという生徒会の思いがあり実施することにした。

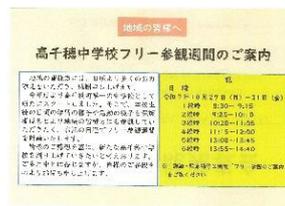
しかし、本校インフルエンザ感染症者の増加により、中止となった。



③ 地域と学校をつなげるための教頭の役割

- 教務主任や学年担当と協議しながら生徒が作成した企画内容や活動内容、支援内容、支援方法について共通理解を図り、適切な人材を確保するために町教育委員会キャリア教育コーディネーターや地域学校協働活動推進委員との調整役としての役割を担った。
- 地域の方々への学校行事案内の広報手段として、町の防災無線や回覧板を活用したが、防災無線の録音や高千穂町内3924世帯への案内の

依頼など、町関係者との連絡調整を行った。



4 今後の課題

- 学校運営協議会の導入から3年が経とうとしているが、その役割が学校関係者評価に偏ってしまっている部分が多くみられ、校内での体制づくりがまだ不十分である。持続可能な取組にしていけるために今一度、学校運営協議会の役割について委員の方々に周知していく必要がある。
- 教頭から職員へ連携した取組の学年推進担当を決めることで、持続可能な取組になると考えられるので、役割を明確にし組織的に対応する必要がある。また、「地域とともにある学校づくり」をさらに推進していくためには、教職員の参画意識を高める必要がある。